

埼玉県子供の生活に関する実態調査 概要版

- (1) 調査対象： ・公立小学校第5学年児童とその保護者（対象17校）
・公立中学校第2学年生徒とその保護者（対象12校）
- (3) 対象地域： 川口市（南部地域）、新座市（南西部地域）、松伏町（東部地域）、
桶川市（県央地域）、嵐山町（川越比企地域）、飯能市（西部地域）、
久喜市（利根地域）、熊谷市（北部地域）、小鹿野町（秩父地域）
- (4) 調査期間： 令和5年7月12日～7月31日

(5) 回収率：

対象		対象数	回収数	有効回答数	有効回答率
小学5年生	児童	1,004	902	899	89.5%
	保護者	1,004	764	757	75.4%
中学2年生	生徒	1,227	855	855	69.7%
	保護者	1,227	700	698	56.9%

【等価世帯収入を軸とした分析】

本調査では、世帯の年間収入について、「子供と同居し、生計を同一にしている家族の人数」を踏まえて下記のような処理をし、「等価世帯収入」の水準による分類を行った。

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）
- 上記の値を、保護者票問2で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。

※令和3年12月 内閣府政策統括官(政策調整担当)発行「令和3年子供の生活状況調査の分析 報告書」から引用

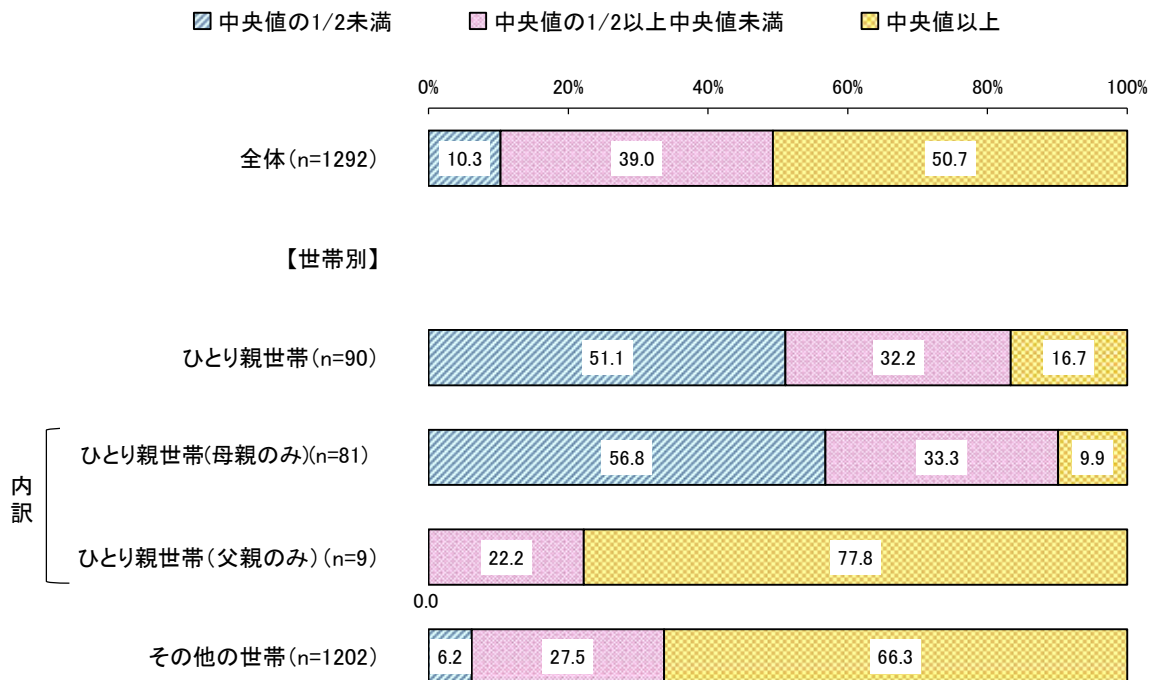
生活状況を「中央値以上」「中央値の1/2以上中央値未満」「中央値の1/2未満」と分類し、分析を行った。

※等価世帯収入の中央値：306.19万円、等価世帯収入の中央値の2分の1：153.09万円。

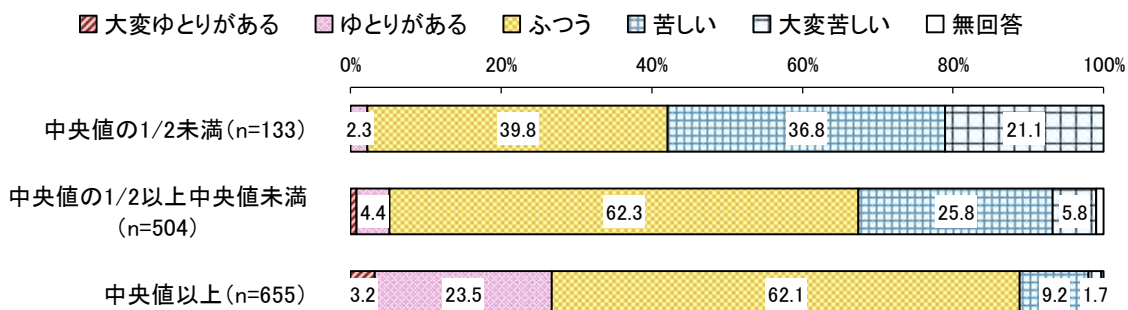
I 保護者アンケート結果について

生活状況別の割合と暮らしの状況

「中央値の1/2未満」の割合は、全体の10.3%となっている。特にひとり親世帯で割合が高く、過半数を占めている。等価世帯収入が低いほど生活が苦しいと感じている割合が高くなっている。



<暮らしの状況>



親の婚姻状況と収入

離婚・死別している世帯では、「中央値の1/2未満」の割合が高い。離婚相手との養育費の取り決めについて「取り決めなし、未受取」の割合は「中央値の1/2未満」「中央値の1/2以上中央値未満」で高くなっている。

言語使用状況

「中央値の1/2未満」では、日本語以外の言語も使用している割合が高くなっている。

親の学歴と就労状況

等価世帯収入が低いほど低学歴、非正規雇用の割合が高い傾向にある。

幼児期の教育

0～2歳の間：「中央値の1/2以上中央値未満」では、保育施設の利用の割合が低くなっている。

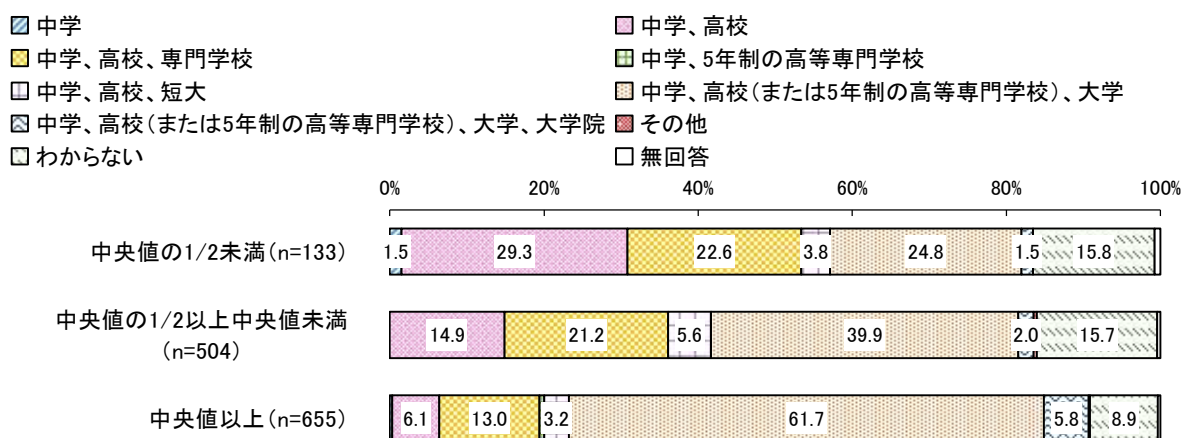
3～5歳の間：すべての世帯で保育施設の利用の割合が高いが、「中央値の1/2未満」では親・親族に頼る割合が「中央値以上」「中央値の1/2以上中央値未満」と比べて高い。

子供との関わり方

ひとり親世帯や等価世帯収入が低いほど子供との関わりや学校行事への参加割合が低く、教育への関与が少ない傾向にある。

進学の見通し

「中央値の1/2未満」では、大学以上への進学の見通しの割合が低く、高等教育への進学機会の格差がみられる。

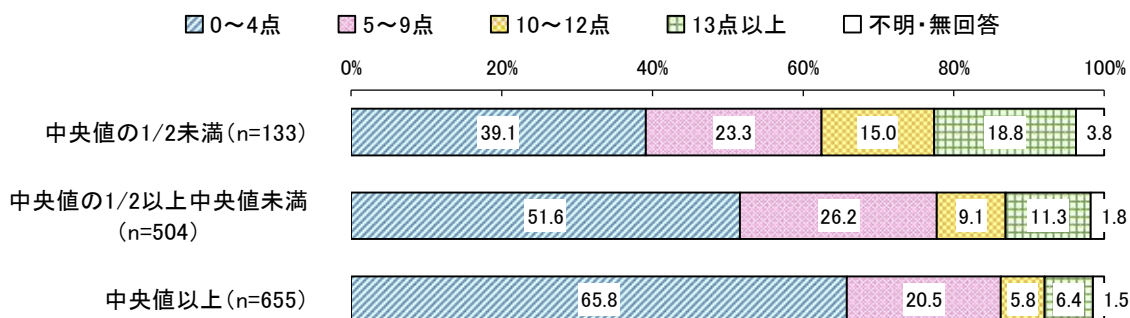


相談やいざという時に頼れる相手

「中央値の1/2未満」では、子育て等に困った時に相談する相手がいない割合が約1割、いざという時にお金の援助が得られる相手がいない割合が3割弱となっている。

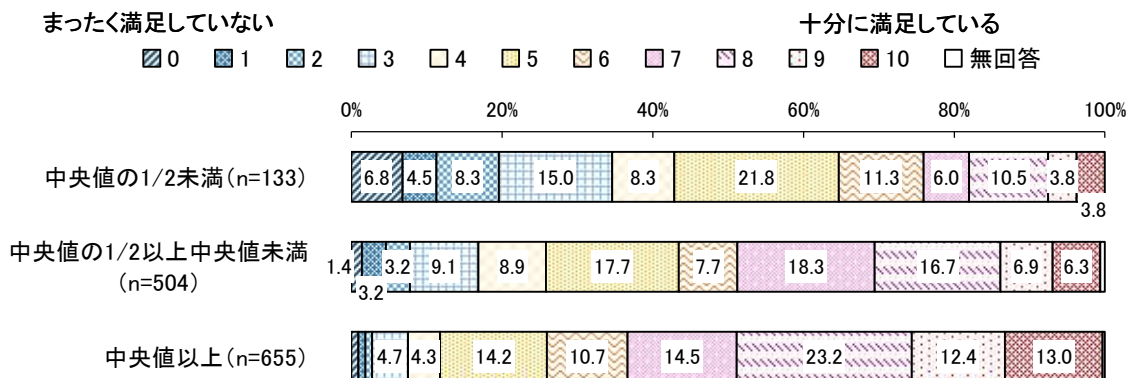
精神状態

保護者の心理的な状態を把握するため、「K6」と呼ばれる指標を設定した。スコアが高くなるほど抑うつ状態が強いことを示しており、等価世帯収入が低いほどスコアが高くなっている。



生活満足度

「中央値の1/2未満」では生活満足度が低くなっている。

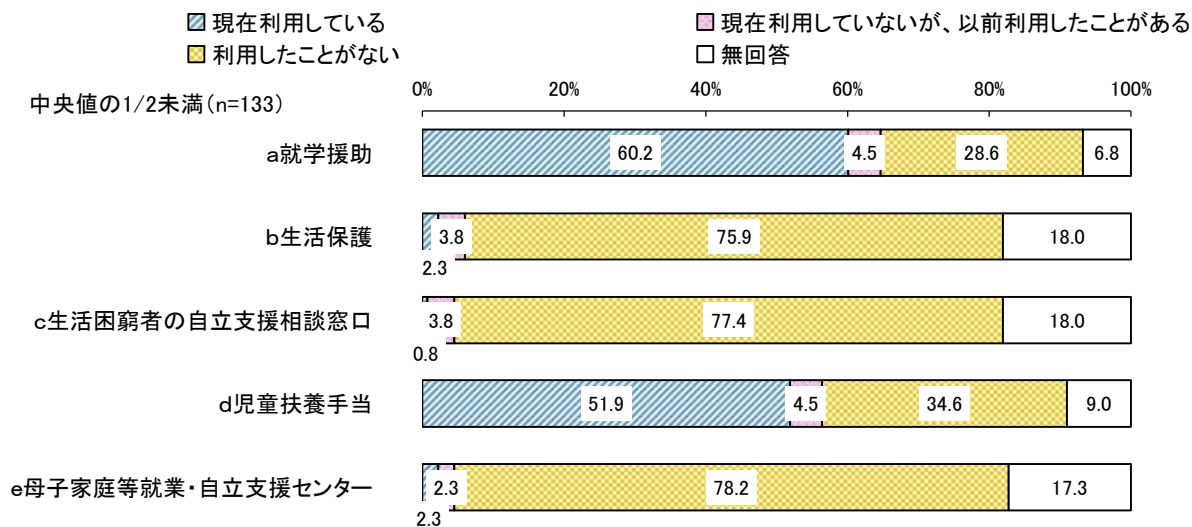


新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響

等価世帯収入が低いほど世帯全体の収入の減少、食料等の必要なものが買えないこと、家庭内でのめんどや心理的ストレスの増加など影響が顕著に現れている。

支援の利用状況

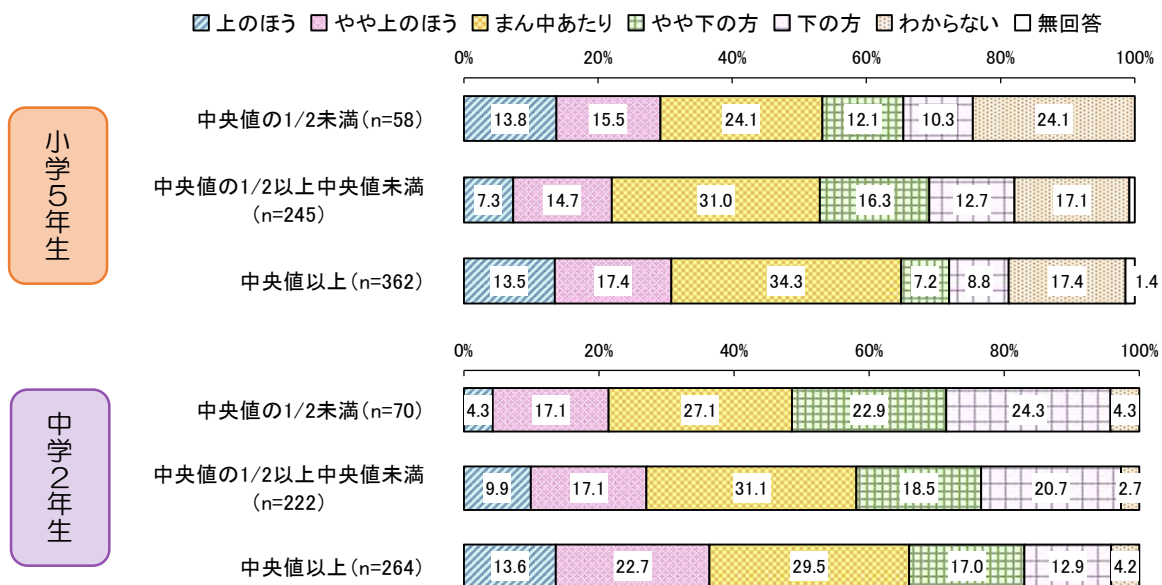
「中央値の1/2未満」では「就学援助」と「児童扶養手当」の利用が多くなっている。利用したことがない理由では、利用したいが支援制度を知らなかった、手続きがわからなかったという回答が少数であるが存在し、認知度や手続き方法に課題がある。



II 子供アンケート結果について

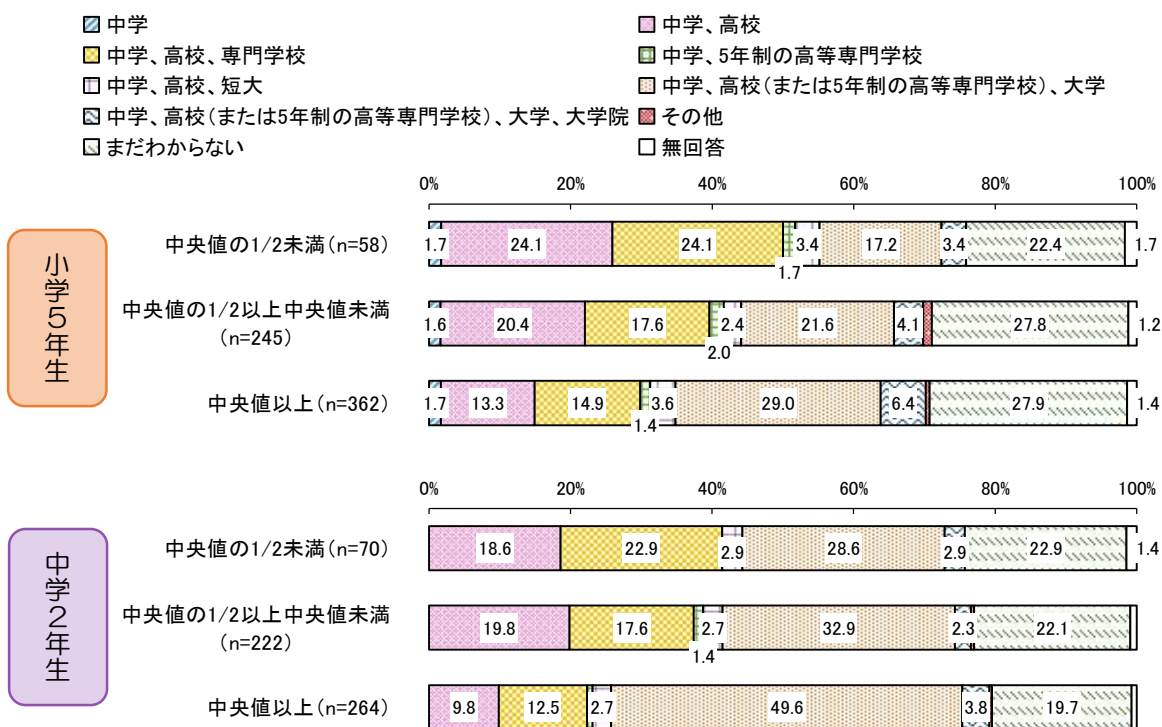
子供の学習状況

中学2年生では、等価世帯収入が低いほど成績が芳しくなく、生活状況は学習習慣や授業の理解度に影響を与えている。



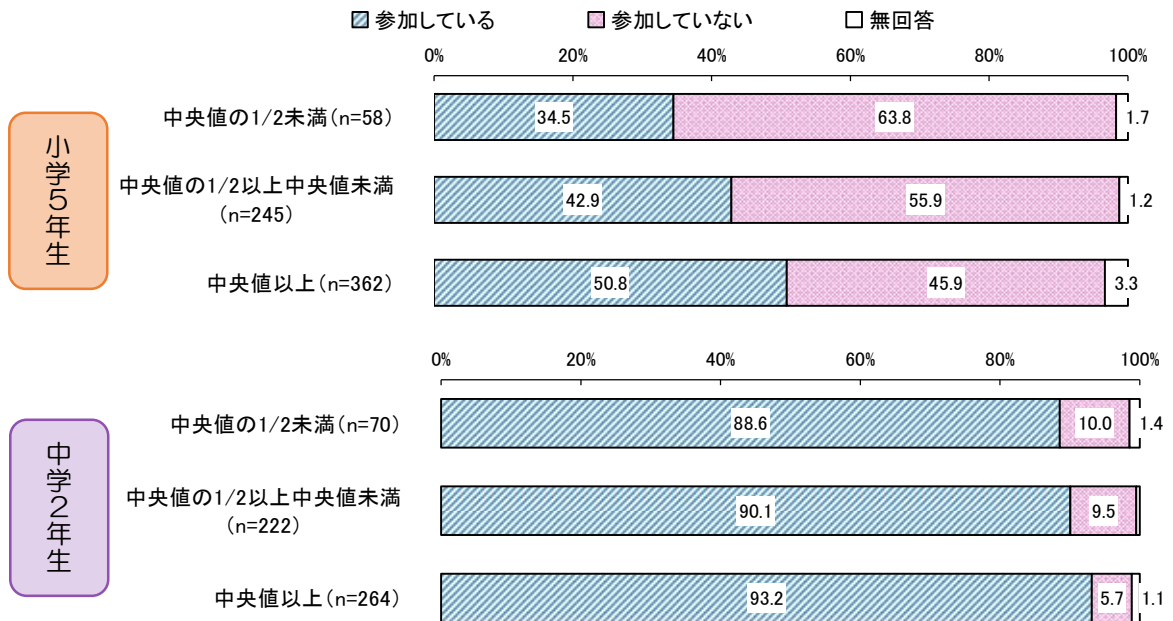
子供の進路状況

「中央値の1/2未満」では自身の希望や成績状況に関係なく、家庭の経済状況を理由として将来の進学先を考えている傾向にある。加えて、保護者との進学希望の差も見られ、経済的理由で希望する進路を断念せざるを得ない等の将来の進路への影響が懸念される。

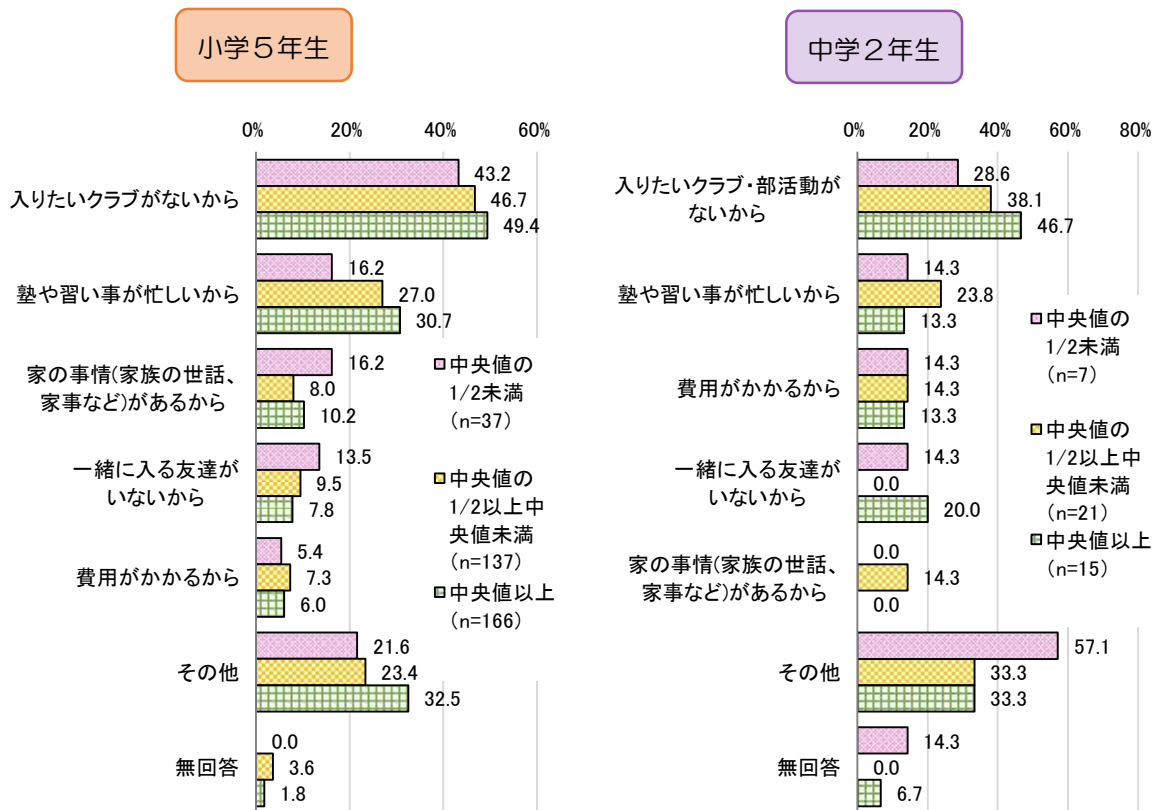


部活動等への参加状況

「中央値の1/2未満」では部活動等に参加してる割合は低い傾向にある。参加していない理由として、入りたいクラブ等がないこと、塾や習い事が忙しいことその他、小学5年生では家の事情、中学2年生では費用の問題が挙げられている。



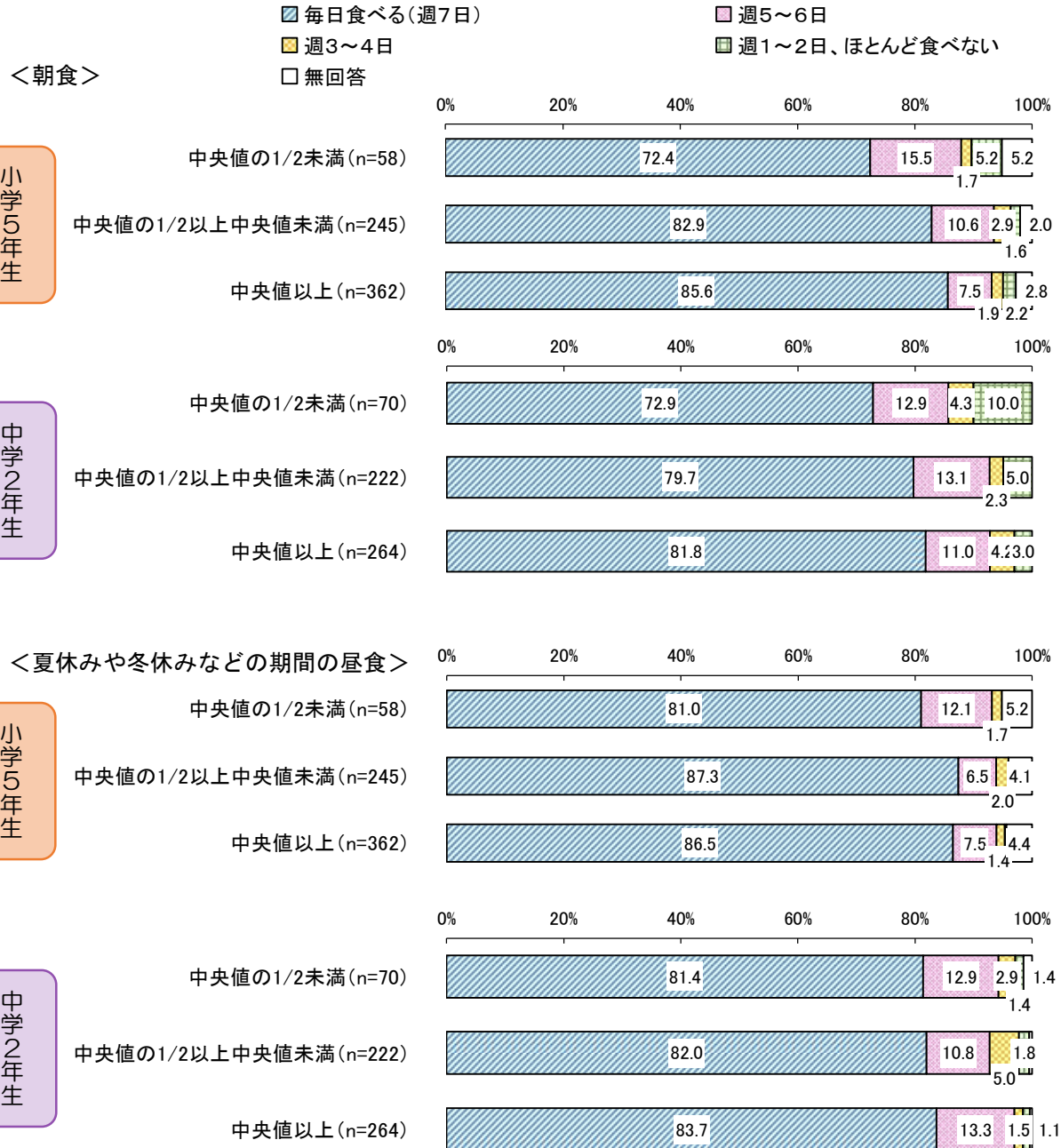
<参加していない理由>



食事の頻度や就寝時間の規則性

夕食については、生活状況による影響はほとんどみられず、9割以上が毎日食べている。朝食や夏休みや冬休みなどの期間の昼食については、「中央値の1/2未満」で毎日食べる割合が低い傾向にあり、不規則な食事となっている。

就寝時間に対する生活状況による影響はほとんどみられなかった。

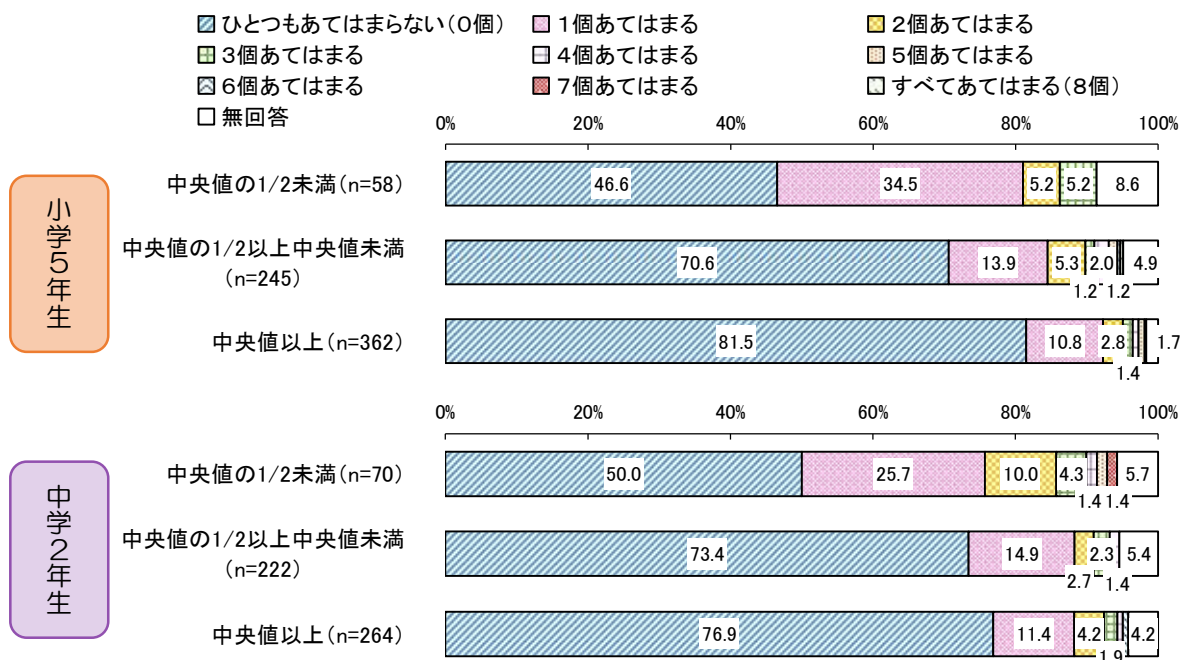


信頼できる大人・友人

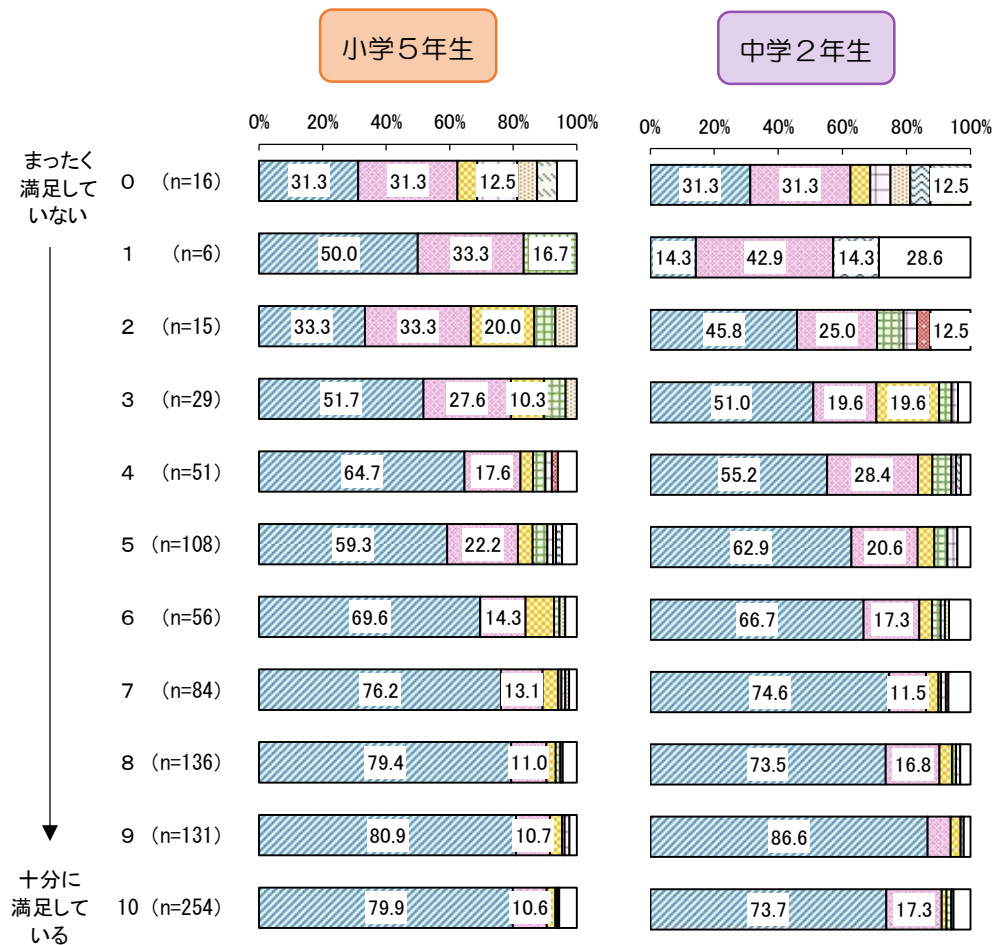
「中央値の1/2未満」では、中学2年生では悩みを相談する相手として「学校の先生」の割合が低くなっている。また、「ネットで知り合った人」の割合が高い傾向にあり、犯罪等に巻き込まれる等の影響が懸念される。

生活満足度

等価世帯収入が低いほど逆境経験にあてはまる割合が高く、生活満足度も低くなっていることから、生活状況が精神状態や生活満足度に影響し自己肯定感の低下につながっていると考えられる。



<生活満足度との関連>



支援の利用状況

各支援について「中央値の1/2未満」における利用は、小学5年生では「a) (自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)」、中学2年生では「a) (自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)」と「b) 勉強を無料でみてくれる場所」の利用が1割程度となっているが、小学5年生、中学2年生ともに「c) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む。)」はほとんど利用がない。また、「a) (自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)」と「b) 勉強を無料でみてくれる場所」は3割以上があれば利用したいと思っており、特に、中学2年生では「b) 勉強を無料でみてくれる場所」をあれば利用したいと思っている割合が高くなっている。

利用者は「友だちが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「気軽に話せる大人が増えた」、「勉強する時間が増えた」等、6割以上が何らかの変化があったと感じており、今後も子供の居場所等の支援の充実が重要であると考えられる。

